

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300107		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)		
所在地	大阪府堺市西区鳳中町7丁240番		
自己評価作成日	令和元年7月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiryoSyosyoCd=2796300107-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である みんな みんな み～んなの笑顔と元気 ①同じ失敗は2度繰り返さない事 ②この仕事が好きな事をモットーに日々頑張っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「笑顔と元気」という理念を基に、職員が笑顔に関わることで利用者の笑顔を誘い、利用者に関わる全ての人々が「元気と笑顔」で過ごせるような支援に努めています。会議では管理者は聞き役になり、職員が主体となり会議を進行し意見交換することで、何でも言い合える関係性を築いています。また何か問題点があれば管理者に伝え臨時カンファレンスを開き、検討することで即時にケアに反映しています。食べることにこだわり、利用者の希望に沿って献立を立て、一緒に下ごしらえや盛り付け、洗い物などを行い食事作りをしています。パーベキューやおせち料理、流しそめんなど季節の食事を楽しむよう取り組み、看取りの際も食事形態を工夫し栄養と水分摂取に配慮しながら支援をしています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念とみんなの笑顔を掲げお客様が安心して暮らせるホーム作りを行っている	事業所の理念を「笑顔と元気」とし、ユニット毎に具体的な目標を掲げ、職員は笑顔での対応を心がけ、利用者の笑顔と元気に繋げています。会議でも確認し合い、利用者と利用者に関わる全ての人々が「元気と笑顔」で過ごせるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会のイベントに参加	自治会に加入し、情報を得て老人会のクリスマス会に参加したり、祭り際にはだんじりが事業所の近くまで立ち寄ってくれています。イベント時にギター演奏や吹奏楽などボランティアの訪問があり家族と共に楽しんでいます。近隣の高校の実習生を受け入れたり地域住民の介護相談に来所してもらうなど、地域貢献にも努めています。今後は小学校に働きかけ交流したり、途絶えていた生き生きサロンへの参加を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ相談等に対して関係機関と連携をとり適切な対応を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の現状、活動状況を報告し意見を頂きサービス向上に努めている	運営推進会議は2ヶ月に1回民生委員、地域包括支援センター職員、近隣のグループホーム管理者が参加して開催されています。事業所の現状、活動状況を報告し、参加者からは地域の情報を得たり、防災対策等について意見交換しています。小学校との交流を図ってはどうかの意見を受け、近々挨拶に出向く予定です。家族には来所時や通信を通じ呼びかけていますが、参加には至っていません。	家族の参加が得られるよう、運営推進会議で助言をもらったり、個別に依頼するなど、より多くの意見が運営に反映される取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	他事業所、グループホームとの交流会に参加し意見交換を行い協力関係を築けるよう取り組んでいる	市との関わりは法人が窓口となり報告や問い合わせを行っています。グループホーム連絡会では市担当者も出席し、情報交換しています。市から実践者研修等の案内や感染症の注意喚起などの連絡を受けた際には連携を取れるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関戸も開放しご家族が気兼ねなく来訪して頂ける様、心掛け身体拘束においては、全職員身体拘束廃止するケアについて話し合い取り組みを行っている	事業所内で年2回委員会のメンバーが中心となり、マニュアルにそって身体拘束の研修を行い、職員全員が理解できるよう取り組んでいます。日中は玄関、フロアーの施錠はせず、言葉による身体拘束が無いよう注意を払っています。不適切な対応については、職員間で注意し合っています。不穏な利用者には散歩等で気分転換を図り閉塞感のないケアに努めています。	

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ホーム内で委員会を設定し勉強会で虐待防止対策に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深め相談時や実施において支援出来る様努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後にはお客様・ご家族様の要望を聞き十分な説明を行い納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談を気軽に相談できる環境作りに努めている	家族の来訪時には必ず利用者と共に写真を取り後日リビングに掲示しています。その際に買い物やメニューの希望、医療に対する意見などを聞き都度対応しています。また法人によるアンケートを実施したり、イベント時に家族も招待したり、遠方の家族には電話等で意見を聞く機会を設けています。検討事項があれば2か月毎に郵送する通信で家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行い意見交換を行っている	毎月全体会議を行い、管理者が運営、人材事項などの情報を伝えた上で聞く姿勢で関わり、職員間で利用者主体としたシフト調整や業務内容の改善について意見交換しています。また業務の中で問題点があれば管理者に申し出て、臨時カンファレンスを行うなど、個々の意見や提案をサービスに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各々の役割を持ち委員を担当する事で勉強会等で発表する場を作り向上心を持つよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外問わず研修等に参加出来る様に勤務の調整を行っている		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームを訪問しお互いに交流する機会を持ち参考になっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に面談し話を聞き日々の業務中で関わりながら本人の思いを受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談は十分に行い、ご家族様に不安が残らないように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し出来るだけ早急に対処し適切な対応を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の自発的な行動を誘う環境を考え介護を受ける感覚を持たないよう出来る動作は見守っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常時報告し情報の共有に努めている。面会時にも相談する事で関係作りを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間など特に規制はなくいつでも気軽に立ち寄れるよう配慮している。外出も規制なく場との関係が途切れないよう努めている	友人や近所の方、親戚の面会時には好きな場所でお茶や椅子を準備し寛いでもらっています。毎週自宅に帰る利用者や、家族と墓参りや外食に出かけることもあります。編み物が趣味の利用者が入居後も職員と一緒にリビングで編み物を継続するなど、馴染みの関係を大切にしたい支援をしています。	

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士でトラブルのないよう席の配慮を考えたり皆で出来る事を日々考え支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡にて相談等受付出来る限りの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のしたい事を日常会話の中から引き出すよう努め出来る限り希望に答えられる努めている	自宅や病院、施設に出向き本人や家族と面談し、生活歴や現状、困っていること等を聞き、今後の希望も含めて書面に記入してもらい思いの把握に繋がっています。入居後は利用者の日々の表情や会話を通して気付きを介護日誌に記入し、カンファレンスで検討し、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中やご家族様からの情報収集や個人記録等から生活歴の把握を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に状態の変化やその日1日の出来事を報告し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりのお客様にあったケアを行えるよう意見やアイデアを出し合い反映させている	入居時のアセスメントをもとに作成された介護計画は、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、通常は6か月で見直しを行っています。見直しの際には評価、再アセスメントの上、利用者も参加してサービス担当者会議を開き現状に即した計画に変更しています。事前に家族の意見を聞き、訪問時に聞いた医師や看護師の意見を反映した内容となっており、日々の介護記録にも生かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にファイルを作成、日々の生活状況・心身状況を詳しく記録 実践や介護計画の見直しに活かしている		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・要望に出来る限り柔軟な対応を行い支援するように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の訪問理美容・訪問歯科・各日で訪問マッサージの施術を希望者が受け入れるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診医の受診が受け入れられ本人・ご家族様の希望に添う適切な医療を受けて頂いている	入居時にかかりつけ医の継続も可能なことを伝えていますが、現在は全員が事業所の協力医を利用し、月2回の往診を受けています。協力医は緊急時等24時間対応可能で、日々の健康管理は週一回来所する訪問看護師が行っています。訪問歯科は全員が口腔ケアや治療を受けており、眼科も必要に応じて2か月毎の往診があります。その他の専門医は職員の同行で受診し、都度家族には状態を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日は訪問看護の健康管理を受け日々の気付きや変化を報告 適切な処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	本人の状態については病院関係者と連携し情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りが必要になった場合は本人、身元引受人の意思を確認 状況に応じ医療機関と協議・方針を共有している	入居時に看取り指針に沿って事業所では医療行為が出来ない事を説明し同意を得ています。重度化した際は管理者から家族に伝え、希望に沿って医師と個別に契約してもらっています。職員間でも方針を共有し、医師や看護師にアドバイスをもらいながら、食事形態を工夫し、栄養と水分摂取に配慮して支援しています。看取り後はカンファレンスでも振り返る機会を確保しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法は掲示している。救急講習を随時参加しているが全員が参加までまだ至っていない		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている	年2回の消防訓練を実施しており、毎年2月、3月に実施し、まずは自主訓練として夜間を想定し、通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導を行っています。1か月後に消防署立ち合いの下、同じ内容での訓練を見てもらい「避難場所を明確にするように」との意見をもらっています。運営推進会議での呼びかけや報告を行い、地域として併設事業所との協力体制を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛けを行っている。また個人情報取り扱いにも細心の注意を払っている	法人での接遇マナー研修もあり、折に触れ事業所でも勉強会を行い、利用者の人格を尊重した対応を心がけています。第三者が聞いても不快のない呼び方に配慮し、トイレ介助の際は羞恥心にも配慮してカーテンの外で待機し、様子を見て声を掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段よりコミュニケーションをとり言葉や十分に傾聴し個々に合わせた会話ややりとりを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全等考慮し 優先しなければならない事もあるが希望に合わせた生活を送って頂けるように努めたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度 訪問理美容を利用し個々の希望を聞いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きなどの事は自らして頂けている	利用者の希望を聞きながら季節や食べられない食材も考慮して献立を決め調理し、利用者は下ごしらえや盛り付け、洗い物など出来ることに携わってもらっています。職員は持参した弁当を利用者と会話を楽しみながら一緒に食べています。また定期的に近隣のスーパーのフードコートで好きなものを食べに出かけています。テラスでバーベキューをしたり、夏は流しそうめんを行う等、季節の食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表は用い把握を行っている		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 個々に合わせた歯磨きを行っている。また訪問歯科により毎週検診を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に沿ったパターン、習慣で時間を決めトイレ誘導しトイレで排泄が行えるように支援している	職員が排泄チェック表からパターンを把握し、個々のタイミングで誘導して、ほとんどの利用者が日中はトイレで排泄しています。夜間はポータブルトイレを使用したり、トイレ誘導することもあります。カンファレンスではパッドの当て方や大きさを工夫したり、布の下着への移行や誘導の間隔等を検討し失敗のない介助に努め、排泄用品の費用が負担にならないよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を毎食の献立に取り入れるよう工夫する。1日1200ccを目標に個々のペース・タイミングで水分補給する。運動や散歩への働きかけ等自然排便を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴出来るよう声掛けの工夫やタイミングを図り入浴習慣に努力している	どの利用者も週に二回は入浴できるよう支援し、日中の時間帯で一人ずつ湯を変えて支援しています。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯も行い、楽しんでもらっています。肌が弱い利用者には、事業所で用意した薬用シャンプーを使用し、拒否が見られる利用者にも、時間や職員を変更して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの意志を尊重し状況に応じて休息・臥床を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状況を把握しNs,Dr.との連携のもと服薬の支援 変化の確認を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・出来ない事をスタッフは把握し出来る事が継続できる生活が送れるよう支援している		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物に出掛ける。花見 外食 地域の行事参加等計画する	気候の良い時期は散歩に出かけたり、個別で洋服の買い物や喫茶等に出かけています。行事として初詣や花見、敬老会等に出かけたり、定期清掃時にスーパーで外食や買い物を楽しんでいます。また家族の協力を得ながら自宅に帰ったり、旅行や外食に出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様が買いたい物はスタッフと共に選び購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って随時対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感のある飾り物をしたり寛げる雰囲気作りを行っている	玄関や共有スペースに、季節感を味わえるよう観葉植物や手作りのカレンダー、小物を飾っています。リビングには行事の際に撮影した写真をたくさん貼り、ウッドデッキでバーベキューを楽しむこともあります。座席は利用者の関係性を考慮して配置しています。日よけ対策にテラスにサンシェードを使用したり、空調の温度も利用者に聞きながら調節し、掃除や換気も毎日行うなど、居心地よく過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を置いたり、お客様同士で会話したり独りで過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や大切にされている品々の持込みで居心地よく過ごせるようにしている	入居時には利用者の使い慣れたものを持参してもらい、事業所にある家具も使用してもらっています。利用者はタンスやテレビ、椅子、仏壇、お札などを持参し、導線を考えて家具を配置しています。散歩の際に摘んだ草花を花瓶に生けたり、編み物の作品を飾る利用者もあり、思い思いの居住空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りと声掛けを工夫している		